

再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担当課：都市局 街路交通施設課
担当課長名：服部 卓也

事業名 連続立体交差事業 <small>けいひんきゆうこうだいし こじましんでん すずきちよう</small> 京浜急行大師線（小島新田駅～鈴木町駅間）	事業区分 連続立体交差	事業主体 川崎市
起終点 <small>かわさしかわさきくたまち</small> 自：神奈川県川崎市川崎区田町2丁目 <small>かわさしかわさきすずきちよう</small> 至：神奈川県川崎市川崎区鈴木町		延長 2.4 km
事業概要 本事業は、京浜急行大師線の小島新田駅から鈴木町駅間の2.4 kmにおいて鉄道を地下化することにより、10箇所踏切を除却し、都市内交通の円滑化を図るとともに、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図る事業である。		
H5年度事業化	H5年度都市計画決定	H8年度用地着手
H17年度工事着手		
全体事業費 約1,691億円	事業進捗率 約45%	供用済延長 ー km
計画交通量 41,451台時/日（川崎大師第1踏切）、12,871台時/日（東門前第1踏切） （踏切遮断交通量）		
費用対効果 B/C （事業全体） 1.04 （残事業） 1.7	総費用 <small>（残事業）/（事業全体）</small> 756/1,944億円 事業費：756/1,944億円 維持管理費：0/0億円	総便益 <small>（残事業）/（事業全体）</small> 1,305/2,020億円 移動時間短縮便益：1,330/2,046億円 走行経費減少便益：-27/-26億円 交通事故減少便益：2.4/0.6億円
基準年 令和4年		
感度分析の結果 （事業全体）交通量：B/C=0.94～1.1（交通量±10%） 事業費：B/C=0.94～1.2（事業費±10%） （残事業）交通量：B/C=1.6～1.9（交通量±10%） 事業費：B/C=1.6～1.9（事業費±10%）		
事業の効果等 （1）交通の円滑化 ・ボトルネック踏切の除却による交通円滑化 ・連坦した踏切の除却による地域の一体性向上 （2）安全かつ快適な通行空間の形成 ・踏切除却による歩行者・自転車の通行の快適性・安全性の向上 ・駅前広場との一体的な整備による駅周辺のバリアフリー化（大師橋駅、川崎大師駅） （3）まちづくりの促進 ・連立事業や道路整備を契機として、駅舎や交通広場等を含め、駅周辺の大街区化等、周辺まちづくりにより賑わい創出に寄与 ・川崎大師駅は、本市有数の観光資源として歴史と文化を備えた川崎大師の玄関口であり、周辺には都市計画決定済の国道409号、北口及び南口駅前交通広場等の用地が位置し、いずれも連立事業後の整備を予定 （4）その他 ・踏切除却に伴い、第1次緊急輸送路である国道409号の交通円滑化が図られることにより、災害時の円滑な避難や物資輸送など防災力の向上に寄与		
関係する地方公共団体等の意見 ・大師連立第1期沿線協議会から1期区間の早期整備に関する要望を受けている		
事業評価監視委員会の意見 ・事業をめぐる社会経済状況等を勘案し、妥当であると判断		
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等 ・首都高速道路 大師JCTの開通（平成22年度） ・殿町国際戦略拠点キングスカイフロントの整備（平成23年～） ・大師橋駅前地区地区計画の決定（平成25年度） ・多摩川スカイブリッジの開通（令和3年度）		
事業の進捗状況、残事業の内容等 ・用地取得率約84%、事業進捗率約45% ・平成31年3月に1期①区間（小島新田駅～東門前駅間）の地下運行を開始		

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

1期区間全体は、「事業継続」とする。一方で、1期②区間の「工事着手は、検討継続」とする

【1期①区間（小島新田駅～東門前駅間）】

・令和5年度の完成に向け、大師橋駅および小島新田駅の駅舎建設等の工事を進める

【1期②区間（東門前駅～鈴木町駅間）】

・令和4年度の再評価を踏まえた今後の取組方針に基づき、取組を推進

施設の構造や工法の変更等

・1期②区間において、より一層の事業費・工期の精査や徹底したコスト縮減を進めていく

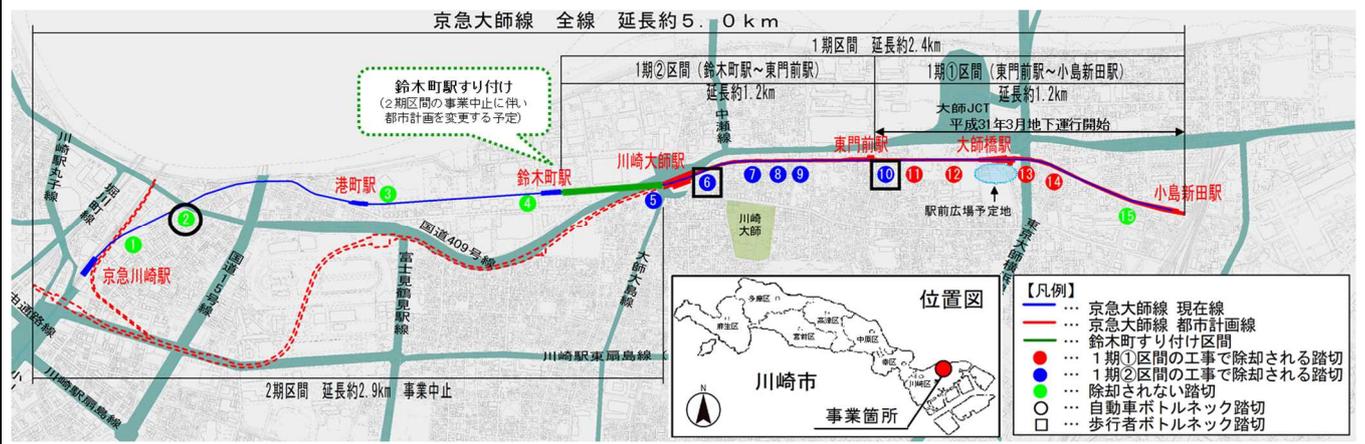
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

・事業の必要性、事業の見通し、費用便益比の算出結果などからの投資効果も確保されているため

事業概要図



- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。